

【今日の説教から】

今日からコロサイ書に入ります。今日の御言葉から、次の御言葉が連想されます。
「いつまでも存続するものは、信仰と希望と愛と、この三つである。このうちで最も大いなるものは、愛である。」(1コリント13:13)

「キリスト・イエスにあっては、割礼があってもなくても、問題ではない。尊いのは、愛によって働く信仰だけである。」(ガラテヤ5:6)

パウロは地中海世界にイエス・キリストの死と復活による神の救いを伝える働きに活躍しましたが、その働きの中で彼はそのよい知らせ、福音の真実さを、リアリティ、真実性をまざまざと感じました。

「この福音は、世界中いたる所でそうであるように、あなたがたのところでも、これを聞いて神の恵みを知ったとき以来、実を結んで成長しているのである。」

そしてこの聖句には大切なことが語られています。福音の真理は救いと望みを与えるのですが、私たちは福音をただ聞くだけではその力にあづかることはできません。「これを聞いて神の恵みを知ったとき以来」、「神の恵みを聞いて真に悟った日から」(新共同訳)、「神を真理であり、真実であり、頼ることの出来る現実のものとしてその恵みを知り理解した時から」実を結んで成長するのです。

このように神様の恵みを現実のものと信じる者には希望が満ち溢れ、そしてまた愛が満ち溢れるのです。実を見れば木の良し悪しが分かるのです。

(マタイ7章)

皆様、おはようございます。

ついに8月も残すところ1週間余りとなりました。暑さ寒さも彼岸までとは言いますが、夜になりますと鈴虫のなく声が聞こえるようにはなりましたが、依然として昼の暑さは相変わらずです。お元気にお過ごしでしたでしょうか。

さて今日からコロサイ書に入りたく思っております。パウロの獄中書簡です。少し前にもご一緒に読んだかもしれません、再び4章からなるこの書簡をご一緒に読み進めてまいりましょう。

今日の御言葉から、次の御言葉が連想されます。

「いつまでも存続するものは、信仰と希望と愛と、この三つである。このうちで最も大いなるものは、愛である。」(1コリント13:13)

「キリスト・イエスにあっては、割礼があってもなくても、問題ではない。尊いのは、愛によって働く信仰だけである。」(ガラテヤ5:6)

1:1 神の御旨によるキリスト・イエスの使徒パウロと兄弟テモテから、

パウロとテモテは、神様のご意志によって、願いとによりイエス様を宣べ伝える使徒となりました。そこには神様のお導きがありました。この言葉は彼らが神様から任命されたという事による権威付けを語っているのではありません。獄の中にあるパウロが、強い時も、弱い時も、順風の時も逆風の時も、自分の意思によるものではなくて神様のご意志によって今自分はこの務めを頂いていると考える、それが彼の支えであったことが記されています。

1:2 コロサイにいる、キリストにある聖徒たち、忠実な兄弟たちへ。わたしたちの父なる神から、恵みと平安とが、あなたがたにあるように。

「忠実な兄弟たち」、これは「信じている、信仰を持っている兄弟たち」とも解することが出来ます。共に信じている。私たちは何を信じているのでしょうか。私たちは私他のために命を捨てて贖いとなってくれたイエス様を信じています。このイエス様を遣わしてくださいました神様の恵みと愛とを信じています。ですから私たちはキリストにある聖徒であり兄弟姉妹です。私たちのこの信仰は、イエス・キリスト抜きでは到底語ることが出来ません。私たちが信じるものは、私たちの力や功績や捧げものによる救いではなくて、キリストにある信仰なのです。

1:3 わたしたちは、いつもあなたがたのために祈り、わたしたちの主イエス・キリストの父なる神に感謝している。

獄中にあってはどこに行くことも出来ず、会って話をしたり、励ましたり、手助けをすることも出来ず、悶々とすることでしょう。しかし私たちには祈りという手段があります。

1:4 これは、キリスト・イエスに対するあなたがたの信仰と、すべての聖徒に対していただいているあなたがたの愛とを、耳にしたからである。

パウロが獄中でコロサイの教会の生徒たちのことを祈りながら、その教会の消息を聞いて大変嬉しく思ったのは、実にこの点でした。

3-4 わたしたちは、いつもあなたがたのために祈り、わたしたちの主イエス・キリストの父なる神に感謝している。これは、キリスト・イエスに対するあなたがたの信仰と、すべての聖徒に対していただいているあなたがたの愛とを、耳にしたからである。

信仰と愛。後に希望という言葉も出てきますが、これこそがいつまでも存続する、決してなくならないものです。

主はいつまでも変わることなく私たちを恵み、赦し、愛してくださいます。ですから私たちの信仰も尽きることはありません。

1:4 これは、キリスト・イエスに対するあなたがたの信仰と、すべての聖徒に対していだいているあなたがたの愛とを、耳にしたからである。

それでは信仰というは何でしょうか。私たちが愛と赦しの主を救い主として信じて信仰は始まるのですが、その信仰は、成長し、進化すべきものであり、聖書はこういう信仰こそが大切だと言っているのです。

「キリスト・イエスにあっては、割礼があってもなくても、問題ではない。尊いのは、愛によって働く信仰だけである。」(ガラテヤ 5:6)

愛によって働く信仰。それはどういうものでしょうか。

ガラテヤ 5:13 兄弟たちよ。あなたがたが召されたのは、実に、自由を得るためである。ただ、その自由を、肉の働く機会としないで、愛をもって互に仕えなさい。

5:14 律法の全体は、「自分を愛するように、あなたの隣り人を愛せよ」というこの一句に尽きるからである。

5:15 気をつけるがよい。もし互にかみ合い、食い合っているなら、あなたがたは互に滅ぼされてしまうだろう。

5:16 わたしは命じる、御靈によって歩きなさい。そうすれば、決して肉の欲を満たすことはない。

5:17 なぜなら、肉の欲するところは御靈に反し、また御靈の欲するところは肉に反するからである。こうして、二つのものは互に相さからい、その結果、あなたがたは自分でしようと思うことを、することができないようになる。

5:18 もしあながたが御靈に導かれるなら、律法の下にはいない。

5:19 肉の働きは明白である。すなわち、不品行、汚れ、好色、

5:20 偶像礼拝、まじない、敵意、争い、そねみ、怒り、党派心、分裂、分派、

5:21 ねたみ、泥酔、宴樂、および、そのたぐいである。わたしは以前も言ったように、今も前もって言っておく。このようなことを行う者は、神の国をつぐことがない。

5:22 しかし、御靈の実は、愛、喜び、平和、寛容、慈愛、善意、忠実、

5:23 柔和、自制であって、これらを否定する律法はない。

5:24 キリスト・イエスに属する者は、自分の肉を、その情と欲と共に十字架につけてしまったのである。

5:25 もしわたしたちが御靈によって生きるのなら、また御靈によって進もうではないか。

5:26 互にいどみ合い、互にねたみ合って、虚栄に生きてはならない。

キリストを信じるという事、それは私たちのために命を捨ててくださった方の救いに感謝して、私たちも自分の全存在をもってその主に応答するという事なのではないでしょうか。

1:4 これは、キリスト・イエスに対するあなたがたの信仰と、すべての聖徒に対していだいでいるあなたがたの愛とを、耳にしたからである。

「すべての聖徒に対して抱いている愛」

この言葉から、「すべての」という言葉が目を引きます。私たちにとってすべての聖徒に対して愛を抱くという事が時に難しいのではないでしょうか。その人とは気が合うが、この人とは気が合わない、あの人のことは理解できるが、この人の考え方には全然共鳴が出来ないという、そういうことがあるのではないか。

コロサイの教会の人たちは、「キリスト・イエスに対する信仰」のゆえ、「すべての聖徒に対していだいでいる愛」を發揮していました。それを耳にしてパウロは「わたしたちの主イエス・キリストの父なる神に感謝している」と語ります。

1:5 この愛は、あなたがたのために天にたくわえられている望みに基くものであり、その望みについては、あなたがたはすでに、あなたがたのところまで伝えられた福音の真理の言葉によって聞いている。

私たちのためには希望が、望みが天に蓄えられていると聖書は語ります。この地上では私たちはしばしば行き詰まりや絶望を感じますが、天に目を向ければ、私たちの希望は山積みになつて蓄えられているというのです。非常に興味深い言葉です。そしてこの言葉は、福音の真理の言葉によって、私たちは聞いているのです。

福音、良き知らせは、真理の福音です。言い換えれば、この良き知らせは真実であり、リアリティのあるもの、実在するものなのです。私たちのきく言葉、それは真実実のある、正しい、リアルな、真実みにあふれる良き言葉なのです。

1:6 そして、この福音は、世界中いたる所でそうであるように、あなたがたのところでも、これを聞いて神の恵みを知ったとき以来、実を結んで成長しているのである。

しかし、「この良き知らせは真実であり、リアリティのあるもの、実在するもの、私たちのきく言葉、それは真実ある、正しい、リアルな、真実みにあふれる良き言葉」を私たち自身のものとするためには、「これを聞いて神の恵みを知ったとき以来」とありますように、この言葉が本当に私に対しての神様からの恵みの言葉であると、自分事として与えられているものであるという風に、私たちのこの手を差し伸ばして、神様から直接手渡しをしてもらう必要があるのです。

新共同訳ではこのように訳しています。

「あなたがたにまで伝えられたこの福音は、世界中至るところでそうであるように、あなたがたのところでも、神の恵みを聞いて真に悟った日から、実を結んで成長しています。」

新改訳ではこのように訳しています。

「この福音は、あなたがたが神の恵みを聞き、それをほんとうに理解したとき以来、あなたがたの間でも見られるとおりの勢いをもって、世界中で、実を結び広がり続けています。福音はそのようにしてあなたがたに届いたのです。」

この箇所をギリシャ語から直訳すればこうなります。「神を真理であり、真実であり、頼ることの出来る現実のものとしてその恵みを知り理解した時から」実を結んで成長するのです。そしてそれは世界中で実を結んでいます。

私たちは、神を真理であり、真実であり、頼ることの出来る現実のご存在でいらっしゃることを赤く知り、理解していたいと思います。それを本当に理解しているのならば、私たちは神様の恵みと愛とを理解するのであり、私たちはすべての聖徒に対して、いや、聖徒であれ、主を知らない方々であれ、私たちと敵対して迫害する人たちであれ、すべての人に対して愛を抱くことが出来るのではないか。そしてそのようにして、愛によって働く信仰こそが最も尊いものなのです。

1:7 あなたがたはこの福音を、わたしたちと同じ僕である、愛するエペラスから学んだのであった。彼はあなたがたのためのキリストの忠実な奉仕者であって、

1:8 あなたがたが御靈によっていたいでいる愛を、わたしたちに知らせてくれたのである。

キリストのしもべとして、しもべとなつてくださったイエス様の道を行くとき、恵みと愛とが信仰者からあふれ出します。そして福音の真理が明らかにされるのです。聖靈が、私たちに愛を教えてくださいます。まず私たちを愛し、守り、包んでくださり、その恵みによって私たちが愛に生きられるようにしてくださるのです。

- マタイ 7:9 あなたがたのうちで、自分の子がパンを求めるのに、石を与える者があろうか。
- 7:10 魚を求めるのに、へびを与える者があろうか。
- 7:11 このように、あなたがたは悪い者であっても、自分の子供には、良い贈り物をすることを知っているとすれば、天にいますあなたがたの父はなおさら、求めてくる者に良いものを下さらないことがあろうか。
- 7:12 だから、何事でも人々からしてほしいと望むことは、人々にもそのとおりにせよ。これが律法であり預言者である。
- 7:13 狹い門からはいれ。滅びにいたる門は大きく、その道は広い。そして、そこからはといって行く者が多い。
- 7:14 命にいたる門は狭く、その道は細い。そして、それを見いだす者が少ない。
- 7:15 にせ預言者を警戒せよ。彼らは、羊の衣を着てあなたがたのところに来るが、その内側は強欲なおおかみである。
- 7:16 あなたがたは、その実によって彼らを見わけるであろう。茨からぶどうを、あざみからいちじくを集める者があろうか。
- 7:17 そのように、すべて良い木は良い実を結び、悪い木は悪い実を結ぶ。
- 7:18 良い木が悪い実をならせるとはないし、悪い木が良い実をならせるとはできない。
- 7:19 良い実を結ばない木はことごとく切られて、火の中に投げ込まれる。
- 7:20 このように、あなたがたはその実によって彼らを見わけるのである。
- 7:21 わたしにむかって『主よ、主よ』と言う者が、みな天国にはいるのではなく、ただ、天にいますわが父の御旨を行う者だけが、はいるのである。
- 7:22 その日には、多くの者が、わたしにむかって『主よ、主よ、わたしたちはあなたの名によって預言したではありませんか。また、あなたの名によって悪霊を追い出し、あなたの名によって多くの力あるわざを行ったではありませんか』と言うであろう。
- 7:23 そのとき、わたしは彼らにはっきり、こう言おう、『あなたがたを全く知らない。不法を働く者どもよ、行てしまえ』。
- 7:24 それで、わたしのこれらの言葉を聞いて行うものを、岩の上に自分の家を建てた賢い人に比べることができよう。
- 7:25 雨が降り、洪水が押し寄せ、風が吹いてその家に打ちつけても、倒れることはない。岩を土台としているからである。
- 7:26 また、わたしのこれらの言葉を聞いても行わない者を、砂の上に自分の家を建てた愚かな人に比べることができよう。
- 7:27 雨が降り、洪水が押し寄せ、風が吹いてその家に打ちつけると、倒れてしまう。そしてその倒れ方はひどいのである』。
- 7:28 イエスがこれらの言を語り終えられると、群衆はその教にひどく驚いた。
- 7:29 それは律法学者たちのようにではなく、権威ある者のように、教えられたからである。

私たちもまた、良き実を実らせ、私たちの幹である神様がほめたたえられるようにと証しをさせて頂ければと願うのです。

◇祈祷；天の父なる神様、今日の礼拝を感謝します。望みと救いにあふれる福音、良い知らせにあづかる

者としてくださいました神様の恵みに感謝いたします。私たちが「神の恵みを聞いて真に悟った日から」、神様がイエス様を、十字架にかけるために遣わされたというその恵みを知り、私たちのうちにどのように神様と、周囲の方々への愛と感謝の心が起こったのでしょうか。どうぞあらゆる苦しめる方々を神様の救いと平安の中にお導き下さい。私たちの家族と、地域の方々を祝福して下さい。私たちをお用い下さい。主イエス様の御名によって祈ります。アーメン